

(仮) 浜益冬のあんしん事業

課題

- ・福祉除雪サービスの担い手不足と高齢化、ルール of 徹底
- ・浜益の住宅は公道までの距離が長い
- ・近所の助け合い(人力)では限界がある
- ・有料でも除雪サービス業者がいればいいな
- ・マンパワーを補う重機や除雪機があれば負担感が少ない
- ・雪捨て場の確保
- ・仕事としてお金がもらえるシステム

課題解決のために必要なこと(要素)

- ・自治会の共助の力、情報力の活用
- ・困ったときのセーフティネットとして動けるモノの確保
- ・地域で重機を持ちボランティアで除雪している人の協力
- ・既存サービスとの調整・バランス(金額・対象者)
- ・浜ワークの自主事業として実施できないか
- ・実際のところ、何件くらいニーズがあるか
- ・自己負担があるならやらない、他地区の相場感は
- ・コントロールセンター等があったら良い(繁忙地区に人手を集中)
- ・法的な縛りはないか

具体的な手法

(事務局提案)

- ・既存雪捨て場(旧浜中グラウンド、群別596-91他)を「冬のあんしん事業」雪捨て場に活用
- ・有料排雪事業の利用ニーズ調査の実施(希望の有無、利用頻度(1シーズン〇回等)、負担額他)
- ・R4降雪シーズンの「お試し事業」実施(カフェ・クローバー、モニター世帯など)
- ・道路運送法(自家用自動車有償運送)などの確認
- ・R5以降の予算化に向けて実施体制・仕組みの検討

(仮) 浜益web情報館「浜益宝庫」事業

課題

- ・文化を伝承する映像の保存
- ・地元の文化・芸術
※ 荘内藩陣屋研究会の方々・人形作家の方・沖揚げ音頭・奴・川下八幡神楽
・浜益音頭保存会・浜益豊漁太鼓・浜益小劇場
- ・地元の歴史(古老から歴史を学ぶ・浜益昔ばなしの更新)
※ 高齢者から昔の話、こぼれ話、よもやま話。戦争やニシン場、学校の話など
- ・たくさんの自然
- ・地域に開かれた学校 → 事業参観日、転じて「事業参加日」
※ 様々な職種、年齢層の方々に学校へ関わってもら。地元愛、自分の家族の成り立ち等、様々な学びへ。

課題解決のために必要なこと(要素)

- ・区民カレンダーに掲載された古い写真のデジタル化
- ・古き良き浜益の写真、8mmフィルム等の映像収集
- ・NPO法人 ezorock による集落の教科書(関係人口層が外部目線で製作、今後も更新予定)
- ・移住、定住を考える方々に浜益の基礎知識を浜益に来るボランティアの方々へのPR
- ・子どもたちのデジタル教育の発展
- ・廃村危機にある集落の今を残す
- ・情報を発信すること、「事柄」だけでなく「人」も
- ・区民カレンダー写真の利用方法検討
- ・昔の沖上げ音頭(太鼓付き。)を今の子どもたちに見せたい
- ・公開に当たっての肖像権の確認
- ・写真よりも動画が良い。youtubeの活用

具体的な手法

- (事務局提案)
- ・浜益の歴史文化的な資料や素材、今の浜益の記録を「浜益宝庫」として後世に残す取り組み
 - ・ITやデジタルを活用し、歴史文化の継承や今の浜益の記録保存をDX
 - ・浜益区コミュニティ普及推進事業実行委員会がプロポーザル(企画提案方式)で委託業務を発注
 - ・素材集めや情報収集は地域協議会が実施
 - ・「肖像権ガイドライン(デジタルアーカイブ学会)」に基づく自主ガイドラインの策定
 - ・(仮称)浜益学園や旧適沢コミセンなどの展示コンテンツとして活用

(仮)浜リハウス事業

課題

- ・危険空き家が増えている
- ・危険空き家の注意喚起と情報共有が必要
- ・歴史的古民家を手放す時期が来始めた
- ・他地域だが、学生インターン民宿斡旋は可哀そう

課題解決のために必要なこと(要素)

- ・解体を望んでいても、どうしたらいいかわからない人も多い
- ・移住定住アドバイザーの存在
- ・浜ワークで働き、移住するスタイルができた
- ・慢性的な住宅不足
- ・古民家とは古ければ良いってもんじゃない
- ・借りたいと思う空き家の見せ方を考える
- ・築100年以上の住宅は家族の成り立ちなどの情報も魅力の一つ
- ・浜ワーク職員の滞在施設も絡めて考えている
- ・空き家情報は多数あるが、タイミングが合わない
- ・浜益で「住む所」が一番大事

具体的な手法

(事務局提案)

- ・空き家情報の整理(写真整理アプリなどを活用)
- ・区内の空き家情報と石狩市補助金(個人対象、リフォーム工事費または空家等の購入費の10%、上限20万円)をセットで情報発信
- ・区内の旧商店店舗をリノベーションし、高齢者サロンや地域交流拠点として再生してはどうか
- ・浜ワークへの就職希望者に一時滞在施設として提供できる環境を整えてはどうか

(仮)防災浜リュック事業

課題

- ・川下自治会からの要望 防災リュックの全戸配布
- ・全戸配布となれば基金事業に当てはまるが自己負担はどうする
- ・非常食等は避難所にあるうえ、更新費用の負担が必要
- ・避難が難しい人を共助や支所の力で助ける
- ・避難するとき、避難した時の防災備品ではどうか
- ・持ち歩きやすいものが良いのでは
- ・防災意識を高める目的も
- ・高齢者は「避難するときどうする」という不安感を抱えている

課題解決のために必要なこと(要素)

- ・防災に備える意識と助け合いの意識を高める目的
- ・最低限必要なグッズは何か
- ・サイズとしてはさっと持ち歩ける、両手をふさがらない物
- ・通帳等貴重品程度も入ると便利
- ・要支援者名簿もあるが、実際は地域内でほとんど把握できている
- ・いざという時にしっかり役立つ物を厳選して詰め合わせ

具体的な手法

(事務局提案)

- ・自治会連合会において、秋の要望取りまとめ時に各単位自治会に提案し、来年4月の総会で協議していただく(実施主体、配布範囲・対象者、金額等)
- ・避難する時に役立つ携行品(ヘッドライト、ラジオ、十徳ナイフ、携帯用簡易トイレ、軍手等)をパッケージ
- ・各地区の避難訓練時に活用することも念頭に内容を検討
- ・「浜マーク」プリント、反射材の貼付などの工夫